

フィリピン渡航 2019春

学生ボランティア団体fan×fun

概要

団体概要

学生ボランティア団体fan×funは「楽しさで背中を押す」を理念に活動している学生団体である。「本当のニーズにあった支援を届けたい」という思いから、2016年に設立され、今年4年目を迎える。現在、青山学院大学の学生を中心に20人で構成され、国内部、国外部の2つの部署を設けて、神奈川県相模原市とフィリピン・セブ島にて、ボランティア活動を行っている。

渡航概要

日程

2019年2月7日から2019年2月14日

メンバー参加人数

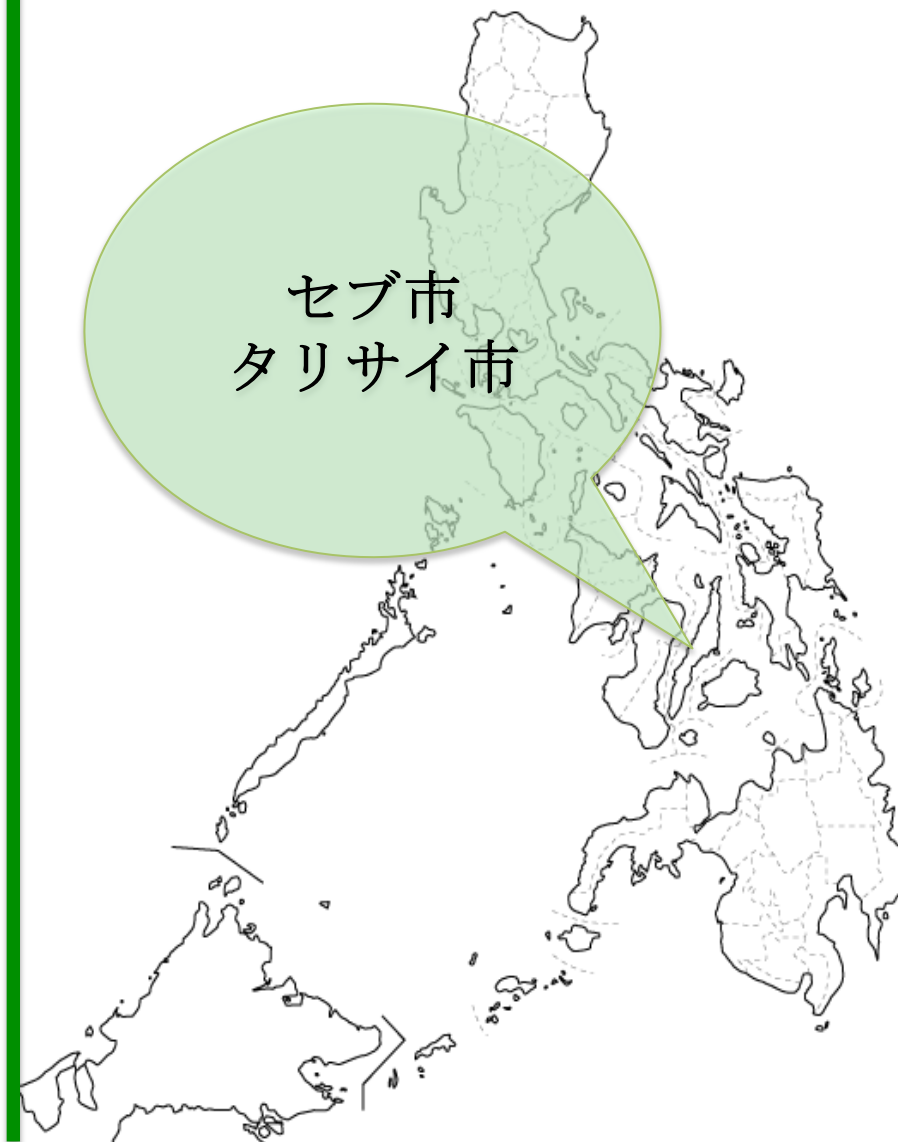
11人

内容

教育、地域開発、文化交流、調査

場所

フィリピン・セブ島セブ市・タリサイ市



(出典)白地図専門

Steps to Dreams

場所:

(1)セブ市 ZAPATERA小学校

(2)タリサイ市 BIASONG小学校

日時:(1)2019年2月8日(金)、(2)2019年2月12日(火)

目標:夢に向かっていき、小学校に通うモチベーションを作ること

目的:子どもたちが将来なりたい姿ややりたい事を想像し、薬物に走ったり、怠惰になったりせずに自分の夢に向かってもらうこと

内容:将来の夢のためにやるべきことを書き出し、すごろくシートに埋め、遊ぶ。

①日本やタイの小学生が夢を紹介する映像を流す(②BIASON小学校だけ)

②夢へのステップを書き出す

③すごろくシートの空欄スペースに埋める

④5、6人で1グループ作り、班ごとにすごろくで遊びながら、各メンバーがフィードバックを行う

⑥各班一人に夢をみんなの前で紹介してもらう

結果

:真剣に将来の夢、ステップを考え、楽しみながらすごろくゲームで遊んでくれた。最後に楽しんでくれたか挙手制で生徒達に質問したところ、ほぼ全員が楽しかったと反応してくれたため、子どもに楽しんでもらうという点では良い結果だと考えられる。①で実施した時は、私たちの意図を伝える姿勢が不足、すごろくゲームを楽しむという面が大きかった。しかし、②では、その反省を活かし、各個人へのフィードバックなどを適度に行いながら実施することができた。その結果、生徒から「夢を追い続けるよ」という声も聞くことができた。

今後の改善点として、ステップを書くシートとすごろくの関連性が高めたり、私たちのフィードバックの質をあげたりすることが考えられる。



薬物教育 & 日本文化体験 & ポスター作り

場所: ZAPATERA小学校

日時: 2019年2月11日(月)

目標: 日本文化を楽しんでもらい、夢中になっていることを認識してもらうこと

目的: 夢中になっていることを大切にしてもらうこと
違法薬物に惑わされないようになること

日本文化に触れてもらうこと

内容: 薬物に関する手作りの絵本を読み聞かせし、日本文化を教える。最後に自分が今はまっていることや楽しいと思うことをポスターに書いてもらう。

- ①絵本の読み聞かせ(薬物が友達を変えてしまったが、折り紙がその友達を救ったというストーリー)
- ②5、6人で一つの班をつくり、折り紙を教える(ハート、パッケンチョ)
- ③現在はまっていることについてポスターを書き、表現してもらう

結果

: 企画の意図を上手く伝えることができた。絵本の読み聞かせから、日本文化体験、ポスター作りの流れをスムーズに行うことができたことも良い点である。その中で、子どもたちが既に折り紙を認知している点から他の日本文化体験や私たちだから伝えられることを探求することが今後重要である。このプロジェクトが子どもたちにとって、薬物はダメである・夢中になっていることを大切にしようという気持ちを醸成するきっかけ作りになったことを願う。



カレー作り&歯磨き

場所:GK ロレガ

日時:2019年2月9日

目標:バランスの良い食事を取ることの意識化
及び歯磨きの習慣化

目的:食から健康被害の予防

内容:100人弱の子どもたちカレー作りから共に行い、食す。そして、その後、歯磨きを行う。

- ①カレーの調理を始める(年齢で調理する役割を区分した)
- ②食に関するストーリーテリング
- ③カレーを食べる
- ④歯磨きの歌と共に歯磨きをする

結果

:参加してくれた子供全員が、怪我なく、調理を終え、食事をできた。子どもたちから、「今日は野菜食べることができた」や「兄弟にも歯磨きを教えるよ」という声を聞くことができ、目標である意識化、習慣化のきっかけ作りはできたと考える。一方で、大人数の子どもたちを扱うこと、野菜が大きく、食べることができない子どもがいたこと、歯磨きの持続性の保ち方、栄養バランスの重要性の伝え方など、今後、持続性を考慮した改善をしていかなければいけない。



藍染体験

日時: 2019年2月13日

場所: SITIO HOPE幼稚園

参加人数: 幼稚園生20人 大学生11人

目標: 藍染という日本の伝統文化に触れ、化学の実験のように楽しんでもらうこと

目的: 日本文化を伝え、非認知能力を育むこと

内容: 2つのグループに分け、前半・後半と分けて藍染をした。

- ①日本で集めた白系Tシャツを子どもに配る
- ②Tシャツの好きな場所に輪ゴムを子どもと一緒に縛る
- ③そのTシャツを藍染のバケツに入れ、染める
(着色の危険性から)
- ④Tシャツが藍色に変化するところを一緒に観察する



結果

: 藍染体験は子どもたちにとって貴重な体験となり、日本の文化を知るこ とや不思議なことに対する好奇心を持つ良い機会となっただろう。私たちメンバーと子どもたちが共同作業をしたり、遊んだりして、楽しい時間を過ごすことができた。一方で、藍染する工程に子どもたちがあまり関われなかった点、また最後の締めくくりがなくプロジェクトが終わってしまい子どもたちへのフィードバックが十分ではなかった点は今後の改善点として活かしていきたい。



ゴミ箱設置プロジェクト

日時: 2019年2月10日

場所: ロレガ

目標: 子どもたちのゴミに対する当事者意識を養い、ゴミをゴミ箱に捨てる習慣化

目的: 不衛生な環境がもたらす人体への悪影響をなくす。

内容: 約30人の幼稚園児から小学生に対して、以下のことを行なった。

- ①ごみに関する危険性、分別について教える
- ②4チーム作り、ゴミ拾い大会を行う
- ③準備したゴミ箱にペイントをする
- ④5箇所に10個のゴミ箱設置する



結果

: 幼稚園児～小学生を対象に一連の活動を行なった。ゴミ拾いのワークショップでは、ゴミ問題に興味ない子どもも含め、みんなが積極的に率先して楽しみながら取り組んでくれた。一方で、ゴミ箱ペイントでは上級生だけに行ってもらうことになってしまい、下級生や幼稚園児に当事者意識を育むゴミ箱ペイントを体験してもらうことができなかった。

ゴミ問題に興味がない子どもも、今の街の状況を変えたいという意識は持っているようである。そのため、あらゆる子どもが街の活性化に参画できるように今後プロジェクトを作っていくことが重要である。



ゴミ箱設置 &ウォールペインティング

日時:2019年2月13日(水)

場所:sitio Hope

目標:地域内外に環境美化を目指していると啓発すること

目的:ゴミを減らし、衛生問題を解決すること

内容:カラフルなゴミ箱を設置し、MARSとウォールペインティングを行なった。

①事前にカラフルなゴミ箱を設置

①地域の中心で、ウォールペインティングを行なった。



結果

:地域のゴミを減らしたいという住民の声や現地のお母さんグループMARSの計画に合わせて、私たちが資金援助するという形で、実施した。ウォールペインティングに私たちも参加し、現地の人と協働することができた。地域にあまりなかったカラフルなペイントによって、ゴミ問題に興味のない人の注目も集めることができ、意識を変えるきっかけ作りができたと考える。今後、MARSや現地法人を中心に、私たちもゴミ問題解決をサポートしていきたい。



寄付

Hope of spring

5000ペソ（施設改善用）

歯磨きと歯磨き粉100個（歯磨きプロジェクト）

ゴミ箱10個（ゴミ箱設置プロジェクト）

衣服20着



Zapatera 小学校

クレヨン6セット

Sitio Hope

ゴミ箱3個(ゴミ箱設置プロジェクト)

ペイントのための備品(ウォールペインティング)



Biasong小学校

5000ペソ

